

9. 「正義と人道の戦い」—高橋くら子の論考—

もし一家庭に於て夫が家長たる威力の下に妻や子供を抑圧したり追い使ったりしたならば其家庭は幸福なそして平和な家庭と云はれませうか。私は斯うした家庭ほど不幸な惨めな家庭はないと思います。

それと同じやうに一国の中に虐げる人と虐げられる人があつたり華やかな生活をして遊び暮らして居る人と働いても働いても貧しい生活をする人があつたりするやうな国が果して文明な幸福な国と云われませうか。そして私たちの住む日本の国は自由と幸福、平和な国でせうか？

日本の国には華族と云ふものがあります。華族に生れた人たちは馬鹿でも何でも華族サマとして尊敬され多くの召使ひを使って栄耀栄華のありたけを尽して居ます又同じ日本人でありながら而も昔から今に到るまで身命を投げうって人間のために尽して来ているが恰も継子であるかのやうな取り扱ひをされ惨々に苦しめられている同胞が三百万人もあります。昔は兎も角大正の今日に到るも尚ほ差別と迫害とは依然として一般社会に行はれて居ます。

また、大工場や大会社を建てて莫大な利益を得てゐる資本家階級の半面には朝から晩まで焼きつくやうな炎天の下で牛馬のやうに働いても十分に食べることを出来ず其上不景気風でも吹かふものなら働かうと思つても働く事の出来ない（使つてくれないから）憐な労働者もあります。其他地主対小作人と云ふやうにあらゆる階級があります。

斯うした貴賤貧富の甚だしい国が幸福な平和な国と云はれませうか、世界に誇り得る一等国であり文明国でせうか？

一番高い階級にある華族サマや働かなくても富むブルジョワ達には此上もない幸福な有難い国でせうが、一般無産階級殊に最も惨めな境遇にある私達には決して幸福な国とは思はれません。

今日のやうな文明の世の中に生れた人達が伝統的な因襲にとらはれて同じ人間を苦しめたり差別したりするやうな忌はしい事がある事は最も恥かしい涙ぐましいことであると思います。

このはずかしい涙ぐましい事実を知りながら只諦めて居てよいでせうか。「今にどうにかなるだろう」などと姑息的な考へをして居てよいでせうか、こんなことではいつまでたつても、幸福な平和な国は建設されないとします。

農村問題は鋤を持てる農夫自身が解決し、労働問題は労働者自身が起つて其の解放を叫び私達同人はそれ自身が団結して不合理な社会に向つて飽まで正義と人道を絶叫し、幸福な平和な国の建設につとめなくてはなりません。

私達の水平運動こそ世界に誇り得る正しい人間解放の急先鋒の人類愛に目醒めたる部落民自身が起つてこの間違つた社会に堂々と人権を主張し自由であり平等である社会を建設しやうと云ふにあるからです。

全国に散在せる懐かしの姉妹よ弟妹よ、私達の真の力を試す時が来ました。私達は倒れるまで正義の闘ひをつづけましょう。私達の初志が貫徹せる時……其時は平和な幸福な国が現はれる時でありませう、地上のパラダイスが築かれるときであります。

(『自由新聞』第4号・1925年9月1日 掲載)

(「人権感覚を深めるために」東栄蔵 前出 P77も参照のこと)